2019年度後期 学群教育改善計画

学群（学部）名	食産業学群
学群（学部）長名	西川正純

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について３つ挙げてください。
※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について各教員から学修すべきキーワードや課題等を提示するなど意識を促してはいるものの時間の確保が出来ていない状況が伺える。一方、実験・実習科目においては、毎回レポート作成が必須となっていることから時間は確保できているが、逆に時間が掛かり過ぎている傾向が見受けられる。
	理由	予習・復習をやらなくても授業に支障がないと考えている学生がいること、アルバイト時間が過多になっていることも原因である。2年次学生については、実験・実習のレポート課題が多すぎて、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在している。学生が思う目標到達度と教員が想定している到達度の間に差があるとの意見もあり、改善すべき課題であると考える。
	理由	事前・事後学修の少なさに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。
③	課題	実験・実習科目において、履修者が増加（偏り）した科目分野がでてきたこと、それに伴い実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。
	理由	食資源開発学類において、学生のコース選択にかなり偏りが出てきていることが主原因である。また、少ない実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間によって集中力が散漫となっていること、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることも一因と推察される。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については継続課題であり、各教員も積極的に、宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等、事前・事後学修を促進する取り組みを行っており、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できる LTD（Learning Through Discussion）を取り入れるなどして、辛抱強く継続していくしかない。ただし、本年度はコロナ禍の影響で遠隔授業を中心に進めていることから、より一層事前・事後学修を促すよう８月の教員会議・教授会、学類（学科）会議を通じて、進めていきたい。その一方、実験・実習科目の毎回レポート課題については、省くことは困難なので、2年次に集中している実験・実習科目の各年次への分散化を図るよう基盤教育も含めてカリキュラム改編案に盛り込むこととしたい。
②	本課題も継続課題なので、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、 LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。また、履修者の多い科目についての対応としてＴＡの増員や2グループに分けての講義や実験・実習などを検討すること、各科目の到達目標について再検討の依頼など、８月の教員会議・教授会、学類（学科）会議で情報の共有化と改善を図る。
③	実験・実習科目における学生間の学修効果にばらつきについては、ピペットマン等の実験器具を 3 月に履修者数整備することができたので、改善の程度を本年度検証する（コロナ禍の影響で学生間の距離を適切に保ちながらの実施となるので、どこまで検証できるかは不透明ではあるが）。また、食資源開発学類におけるコース選択の学生数の偏りについては、コース制の見直しも含めてカリキュラム改編案に盛り込むこととしたい。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例としては、「資料のわかりやすさ、小テストが復習等に役立った」、「外部講師を招いての講義で、食品業界の実際を知るのに役立った」、「ポイントをまとめてあるのは、復習の時にも理解を助けてくれた。」などがあり、授業改善の良い事例としては、「クリッカーを使ったアクティブラーニングを実施する」、「理解度を向上させるような学習法・興味を持つようなトピックスなどを交えた講義法」、「知識だけでない総合力が見につくようなレポート課題を課す」などであった。

2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教育改善計画としては、コロナ禍ではあるが昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。